校友時報

第51号
発行所
秋田縣立能代高等學校新聞部
電話 254番
編集人 小西吉則
印刷所 大勝堂印刷所

學生大歓迎!!
キムラヤ
能代市畠町

後期生徒會 新陣容を發足

◇……去日、今年度後期生徒会正副委員長選挙を挙行。委員長候補の奈良、水沢、……◇
◇……佐藤の三氏(共会計候補)が投票開始を行い、ただちに選挙を行ったが、奈良君……◇
◇……が七十名を得て当選、又副委員長には再選挙で大森君が当選しその任に当る。……◇

今年度後期生徒会正副委員長選挙は十月四日(火)十月十八日(月)に行われた。委員長には奈良君(2E)副委員長には大森君(2C)がそれぞれ当選しその任務に当る事になった。十月四日行われた委員長選挙の生徒総会では、奈良、水沢、佐藤三候補の投票発表があった後、ただちに選挙を行ったが、奈良君が全投票数の七一%を獲得し圧倒的多数を持ち当選した。

奈良委員長

当選　奈良久孝　五二一票
次点　水沢忠明　六七票

又副委員長選挙は十月五日の締切日まで立候補が無いため、各ホームルールより選挙で一名を選び、その中から大森君(2C)、児玉君(2A)、佐井君(2D)、熊谷君(2A)の五名を選び、十月十八日候補五名の中から大森君が最高票を得たが、全投票者数三分の二に満たぬため、会則第四条(第一項)【正副委員長選挙の際投票者の得票が全投票数の三分の二に充たない時は、その選挙を無効とし、やりなおす】より今回の選挙が無効となり再選挙を行った結果、前回と同じく大森君が五十%を獲得して当選に決つた。

大森副委員長

当選　大森新二　三七〇票
次点　児玉　博　一〇七票

委員長に奈良(2E)君が就任
副委は再選擧で大森君(2C)が當選

論說
「社会を疑視せよ」

去る一日行なわれた「原水爆禁止運動」に関する討論会について一言申し述べたい。

まず討論会そのものに対しては、多少急に思った感があった為か充分な議論が交わされなかったようで残念である。これは関会許可が遅れた為とは言え、提案者側の宣伝の不徹底として反省を今後に持つものである。

又、会に出席した生徒の社会問題に対する関心の浅さを如実に示すものであろう。

第一に、新聞、ラジオの報道、解説に充分な注意を払っていないが、多少急に思った感があった為か充分な議論が交わされなかったようで残念である。これは関会許可が遅れた為とは言え、提案者側の宣伝の不徹底として反省を今後に持つものである。

又、会に出席した生徒の社会問題に対する関心の浅さを如実に示すものであろう。

第一に、新聞、ラジオの報道、解説に充分な注意を払っていない為に、自分の意見発表に自信をもった態度で臨んでいない。自己の意見をはっきりさせる事は討論会の第一条件であって、本校の場合検討を要する事である。

附帯して発表者が少かった事も残念である。

次に感ぜられるのは、考え方が少し狭い範囲におかれてあった事である。平面的だとは言えないだろうか、禁止運動に賛意を表する者が大多数であったから、この内から例をとると「久保山さんの死」とか「野菜に、飲料水に放射能物質が含まれている」と言う。確かに命の保障は全難になりつつあると言える。これは万人の認めるところである。然し乍ら更に綿密な研究を必要とするのではなかろうか。禁止運動は国民の、否全人類の心の底からの叫びなのであるが、我々学生は此の論理的な見解を要求されるからである。

東西両陣営が互に科学兵器の保有に躍々としている現在、両者の力の均等によって辛じて大戦一とは共に考察し応験の難風がくん身に応ずみ会に、天候調やかならざる事を憂うとしているわけだが、後悔先立たない為の「計画順調なり」と聞きたい。

日本の経済状勢はデイレンの路をたどり、企業の会社が不振から設備面で「目前ありや」と聞きたい。

事を自覚し、「導ないかを自己の胸に問うべき時期である。

☆

「秋深し」

「鄰りゆうの秋は行き木枯しと」

日、天候調やかならざる事を憂うとしているわけだが、後悔先立たない為の「計画順調なり」と聞きたい。

日本の経済状勢はデイレンの路をたどり、企業の会社が不振から設備面で「目前ありや」と聞きたい。

事を自覚し、「導ないかを自己の胸に問うべき時期である。

☆

企画部長に水澤君
各部正副部長決る

【写真】は 上…企画部長、中右…森田副委員長は去る十月〇〇日十八番教室に第〇回生徒委員会を召集、後期正副委員長への事務引継を行った。直ちに新委員長による人選を行った。直ちに新委員長による人選を行った。

長内が総部長、中左…石渡岡風紀部長、上右…鼎山会計部長、下左…鎌風紀部長

つて新役員名簿が提示され、委員会はこれを了承した。各部々長の顔ぶれは次の通りである。

(上が部長、下は副部長)

総務部
企画＝水沢忠明、佐藤庄博
会計＝鼎山　、児玉　淳
風紀＝石渡岡孝、熊谷倫子
厚生＝鎌木重悦、田中健三
書記＝佐々木義治、小西吉則
文化部
出版＝奈良久孝、長内明徳
文芸＝佐々木義治、小川洋
科学＝安藤尚武、梅田祐吉
音楽＝神尾昌義、竹内　堯
美術＝工藤金美、清水勝矢
新聞＝水沢忠明、佐藤　満
放送＝木内義明、覆辺光男
運動部
硬野＝今野勘一、斎藤　操
軟野＝滝川宗重、青山正道
庭球＝大谷勝矢、佐藤男
籠球＝梅田　勇、渡部孝
排球＝田畑国三、高橋孝
卓球＝鈴木清夏、田村一雄
競技＝荒川　稔、金子秀雄
スキー＝鈴木重彬、成田哲三
柔道＝保坂秋雄、石井信之
剣道＝鎌田吉郎、柳谷源太郎
図書選考委員会
委員長　工藤義也
図書＝平沢　剛、

奈良君、關東、東北辯論に入賞

去る三十、三十一両日に亘って福島大学で行われた福島大学主催会議同部、福島民報社主催の関東北高等学校辯論大会に本校から佐々木源義君、奈良久孝君が参加した昨年優勝の佐々木君は惜しくも予選で敗れたが、奈良君は決勝に残り十位に入賞した。

又、三十日開大雄井学部主催の弁論大会に出場した茂内義隆君は秋田県予選(於秋大)で敗れた。

會則再検討に着手
會則研究會發足す

以前から生徒会々則の改正の問題が論議されていたが、この度生徒会々則の全面的な再検討を行う事になり、奈良生徒会委員長を委員長に生徒会々則研究委員会が発足した。改正の対象となる事項は次の諸項の模様である。

①生徒総会にかける議長の委員長担当制
②正副委員長選挙法に関する事項
③図書選考委員会の生徒会にかける位置の決定
④応援団の拡張に関する事柄

【解説】①については現在の常任制度では議事運営がやゝもすれば委員長の働きかけにより充分な論議がなされず、委員長の独裁者たらしむる可能性のある事が言われており、附帯して議長の指名権限は委員長にあるべきであるとの意見が多い。

②については現在の正副委員長選挙法は、現行法に比べ、選挙運動に関しては、現行法に比べ、選挙運動に関しては、現行法に比べ、選挙運動に関しては